

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
国際ペット総合専門学校		平成16年12月28日	岡田 徹		〒320-0804 栃木県宇都宮市二荒町6-6 (電話) 028-614-2337		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人ティビィシイ学院		昭和60年3月16日	齋藤 武士		〒320-0811 栃木県宇都宮市大通り1-2-5~6 (電話) 028-622-8110		
目的	企業等と連携し、飼育員やドッグトレーナーに関する知識・技術を修得させることを主に、グルーミング技術を高めることで犬体を清潔で健康的に飼育管理できるようにする。また、専門技術だけでなく、必要なコミュニケーション力も身に付けさせ、将来関係業界で活躍できる人材を育成する。						
分野	課程名		学科名		専門士	高度専門士	
文化・教養	文化・教養専門課程		飼育・しつけ学科		平成28年文部科学省告示第18号	-	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間		2,264	608	0	1,656	0
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60人		46人		5人	7人	12人	
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 科目ごとに試験を行い、A,B,C,Dにより評価を付ける。		
長期休み	■夏季：7月第5週目～8月第3週目 ■冬季：12月第3週目～1月第1週目 ■春季：3月第2週目～4月第2週目			卒業・進級条件	①通年の成績評価が全てC以上であること。 ②各学科により指定された認定試験に合格すること。(該当する場合のみ受験) ③各学科により指定された基準検定を取得すること。 ④90%以上の出席率であること。 ⑤各科目それぞれ70%以上の出席率及び80%以上の総出席率であること。 ⑥学費、その他学校納付金の納入が完了していること。		
生徒指導	■クラス担任制：有 ■長期欠席者への指導等の対応 個人面談、三者面談、保護者との連絡			課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動(栃木県動物愛護指導センターにて保護犬猫のお世話) ■サークル活動：無		
就職等の状況	■主な就職先、業界等 ペットワールド、ウェルシーファームなど ペットショップ、動物病院、ブリーダー、牧場 ■就職率 ^{※1} ：93% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} ：83% ■その他 (平成27年度卒業者にに関する平成28年5月1日時点の情報)			主な資格・検定等	・日本動物専門学校協会ドッグトレーナーライセンス1級 ・日本ペット技能検定トリマー2級 ・全国ペット協会家庭動物管理士3級 ・愛玩動物飼養管理士2級		
中途退学の現状	■中途退学者 1名 平成27年4月1日時点において 在学者 43名 平成28年3月31日時点において 在学者 42名 ■中途退学の主な理由 他分野への進路変更など			■中退率 2.3%	(平成27年4月1日入学者を含む) (平成28年3月31日卒業者をを含む)		
ホームページ	http://www.fashionpet.ac.jp						

■中退防止のための取組
 性格検査を取り入れた個別指導教育法を行っている。定期的に個人面談および三者面談を行い、保護者と連携した指導を行っている。退学防止委員会を設置し、学生情報の共有化を図り、学校として学生とともに問題解決を図るべく努力している。また、校内に学生相談室を設け相談に乗っている。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

学科目的に基づき、専門分野に関係する企業等と連携し、就業先業界における専門性の動向、国又は地域の産業振興の方向性、新たに必要となる実務に関する知識・技術・技能などを把握分析し、当該学科の教育課程の編成に資する。

(活動)

- ① 関連業界の専門性に関する動向について把握・分析する。
- ② 新たに必要となる実務に関する知識、技術、技能などについて把握・分析する。
- ③ 当該専門課程にふさわしい授業内容や授業方法の工夫・改善を図る。
- ④ 当該専門課程にふさわしい授業科目の開設等を協議する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

- ① 校長の管理下、本校各種委員会(諮問機関)に位置付け、企業等委員と連携し今後の教育課程の編成に資する。
- ② 校長は当該委員会の答申を受け、運営委員会に諮り全体会議で協議の上、教務部のもと関係学科が教育課程の編成に当たる。

(運営)

- ・当該委員会を本校内に設置する
- ・委員は、企業等委員(業界団体等委員及び企業委員)と学校委員とする。
- ・委員長は学校長とする。
- ・年2回以上実施する。
- ・協議結果をできるだけ重視し、関係学科の教育課程に反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
松山 秀博	一般社団法人全国ペット協会 常務理事	平成28年4月1日～平成29年3月31日(1年)	①
藤田 泰昌	ペットリゾートカレッジ株式会社 支配人	平成28年4月1日～平成29年3月31日(1年)	③
岡田 徹	国際ペット総合専門学校 校長	平成28年4月1日～平成29年3月31日(1年)	
山口 真利子	国際ペット総合専門学校 副校長	平成28年4月1日～平成29年3月31日(1年)	
尾崎 正明	国際ペット総合専門学校 教務部長	平成28年4月1日～平成29年3月31日(1年)	
大里 亜矢	国際ペット総合専門学校 飼育・しつけ学科担当	平成28年4月1日～平成29年3月31日(1年)	
檀渕 守	国際ペット総合専門学校 飼育・しつけ学科担当	平成28年4月1日～平成29年3月31日(1年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間開催数)

2回

(開催日時)

第1回 平成28年6月23日(木) 14:00～16:00

第2回 平成28年9月1日(木) 14:00～15:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

i ペット業界が求める人材について

(対応)1・2年生合同で、2年生が1年生に教える機会を作ることで、勉強したことを深く理解することができ、コミュニケーション力が身に付くという意見をいただき、合同で実施できる範囲で対応した。

(課題)なかなか多くの機会を設定することは難しい。イベント等で対応していく。

ii 飼育・しつけ学科に求められる専門性について

(対応)生命が生まれてから終焉までが飼育であり、子犬の扱いも大事だが老齢犬のお世話も大事であるという意見をいただき、生体を使ったパピートレーニングの授業を入れた。老齢犬については該当する犬がおらず未実施。

(課題)老齢犬の準備が難しく、授業として取り入れが難しい状況であるなら、病院等での臨床の画像等を見るだけでも勉強になるといことで今後取り入れていく予定である。

iii 飼育・しつけ学科の資格取得について

(対応)アニコムペット保険や愛玩動物飼養管理士は希望者のみの受験であったが次年度以降は卒業基準検定として、全員受験にできないか検討。

(課題)受験料の負担がかかるため、全員受験で問題がないか検討する。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実際に犬や展示動物に触れ、現場で企業講師等から直接指導を受けることにより、即戦力となる最新の知識・技術を修得するとともに、飼育員としての素養を身につける。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

- ① 担当教員と企業講師は事前に打合せを行い、実習内容の詳細について、「実習計画書」及び「評価基準」を作成する。
- ② 実習期間中は、担当教員と企業講師が連携し、学生の進捗や理解、授業態度や様子等について連絡し合い、その後の実習や授業運営に役立てる。
- ③ 担当教員と企業講師は学習成果について協議し、さらなる指導の改善・工夫を図る。
- ④ 実習修了後には、企業講師による学生の学習成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価・科目習得認定を行う。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
「校外飼育実習」	ペットリゾートカレッジ株式会社では犬・猫の飼育方法・ケアを学ぶ。特に学校では経験できない高齢犬について実践的に学習する。 宇都宮動物園では動物園スタッフの仕事を体験することで、小型から大型までの展示動物の飼育方法や展示方法を実践的に学ぶ。	ペットリゾートカレッジ株式会社 宇都宮動物園

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

関係企業等と連携し、飼育やしつけを中心としたペット業界に関連する最新の知識・技術並びに、学生に対する指導力等の修得・向上のため、企業等から講師を招いての校内研修及び職能団体等が実施する校外研修等への参加等を組織的計画的に推進する。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

- i 対象：飼育担当教員
- ii 内容：栃木県動物愛護指導センター主催セミナー「高齢犬のケア」を受講。近年、家庭犬の高齢化がすすみ、高齢犬のケアが必要となっている。
- iii 期間：平成28年2月28日
- iiii 連携内容：飼育を担当する者にとって、高齢犬とどう向き合うかが大切となっている。高齢犬にありがちな病気や特性についてきちんと理解し、高齢犬の正しいケアができる者が必要とされていることを踏まえ、この研修にて習得したものを科目「ペットショップ学」にて学生に指導していく。

②指導力の修得・向上のための研修等

- i 対象：全教職員
- ii 内容：履歴書やエントリーシートなどの選考書類の記入法を中心に、現役キャリアカウンセラーを招き指導を受けた。学生の苦手とする志望の動機や自己PRの有効な書き方や、得意分野、不得意分野など自己分析の手法を学んだ。また学生との適切な信頼関係のもと、キャリアカウンセラーとして自覚することの大切さを学んだ。学生の就職指導は全教職員で対応することが基本であり、これら学んだ内容を今後の就職指導に役立てる。
- iii 期間：平成27年9月7日

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

- i 対象：飼育担当教員
- ii 内容：全国ペット協会主催セミナー「猫の繁殖と疾病の予防管理」を受講。近年、猫の登録頭数が犬の登録頭数に迫る勢いで増えており、ペットショップでも猫の販売数が増えており、猫に対するより深い専門的な知識が必要とされている。
- iii 期間：平成28年7月5日
- iiii 連携内容：ペットの飼育頭数で猫が犬とほぼ同数まで増え、ペット市場で猫に関する比率が高まっている。ペットショップでも猫の販売数が増え、それに伴い猫に関する食料やグッズの販売も増え、猫に対するより深い専門的な知識が今まで以上に必要とされている。今回習得したものを科目「品種学」や「ペットショップ学」にて活かしていく。

②指導力の修得・向上のための研修等

- i 対象：全教職員
- ii 内容：カウンセリング協会の方を招き、学生理解のための学校カウンセリングマインドの基礎基本と初歩的カウンセリングスキルを学んだ。心の弱い学生、あるいは発達障害が疑われる学生が増えており、学生指導をするにあたってカウンセリングマインド技術は必須である。これら学んだ内容を活かし、今後学生理解と退学防止に役立てていく。
- iii 期間：平成28年8月26日

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

教職員による自己評価について、学校関係者評価を行い、学校の現状と課題を明らかにし、自己評価の客観性・透明性を高めるとともに、学校運営の改善、教育力の向上に資する。

- ① 自己評価が適切に行われたか、その内容と方法について評価する。
- ② 学生、保護者、教職員、関係企業等調査により、学校の現状を把握する。
- ③ 授業や学校行事の参観、施設・設備の視察を通して、学校の現状を把握する。
- ④ 学校運営の改善に向けた取組が適切かどうか評価する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか ・学校における職業教育の特色は何か ・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか ・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか ・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2)学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ・目的等に沿った運営方針が策定されているか ・運営方針に沿った事業計画が策定されているか ・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか ・人事・給与に関する規定等は整備されているか ・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか ・教育活動等に関する情報公開が適切になされているか ・情報システム化等による業務の効率化が図られているか
(3)教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか ・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか ・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか ・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実践されているか ・関連分野の企業・関連施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか ・関連分野における実践的な職業教育（産業連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか ・授業評価の実施・評価体制はあるか ・職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか ・成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか ・資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか ・人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか ・関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか ・関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や、教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか ・職員の能力開発のための研修等が行われているか
(4)学修成果	<ul style="list-style-type: none"> ・就職率の向上が図られているか ・資格取得率の向上が図られているか ・退学率の低減が図られているか ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか ・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか
(5)学生支援	<ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職に関する支援体制は整備されているか ・学生相談に関する体制は整備されているか ・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか ・学生の健康管理を担う組織体制はあるか ・課外活動に対する支援体制は整備されているか ・学生の生活環境への支援は行われているか ・保護者と適切に連携しているか ・卒業生への支援体制はあるか ・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか ・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか
(6)教育環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか ・防災に対する体制は整備されているか
(7)学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> ・学生募集活動は、適正に行われているか ・学生募集活動において、教育成果は伝えられているか ・学納金は妥当なものとなっているか
(8)財務	<ul style="list-style-type: none"> ・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか ・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか ・財務について会計監査が適正に行われているか ・財務情報公開の体制整備はできているか

(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか ・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか ・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか ・自己評価結果を公開しているか
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか ・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか ・地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

教育理念・目標について、オープンキャンパスに参加されたことのある保護者の方への理解は得られているが、そうでない保護者の方には不十分であることが判明したため、次年度は入学前に保護者向けの説明会の開催を予定している。
 学校運営情報については、ネット上にて公開されていることがあまり知られておらず、積極的にホームページの有効活用を推進していく。

社会貢献ということ、現在の活動状況について理解を得られたが、公開講座・教育訓練については消極的なところがあったので、可能なところから前向きに実施していく。

卒業生の就職先の活躍状況の確認については、委員からアドバイスをいただいた通り、求人票用紙をお送りする際に併せてアンケートを同封し卒業生の活躍等を確認している。

委員の方から学校運営についておおむね良好と評価をいただいたが、上記のようなご意見もあり、それらについては必要性、可能性のあるものから対応している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
松山 秀博	一般社団法人全国ペット協会 常務理事	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	企業等委員 全学科
前田 直樹	Dog Salon M・Style オーナー	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	企業等委員 トリマー学科
藤田 泰昌	ペットリゾートカレッジ株式会社 支配人	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	企業等委員 飼育・しつけ学科
菱川 則夫	泉が丘動物病院 院長	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	企業等委員 動物看護師学科
亀井 眞起	GEN's DOG オーナー	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	企業等委員 ペットスペシャリスト学科
清水 邦一	清水動物病院 院長	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	企業等委員 ペットスペシャリスト学科
野澤 裕子	保護者代表	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	PTA
松本 久実	卒業生代表	平成28年4月1日～ 平成29年3月31日(1年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他() ()

URL: <http://www.fashionpet.ac.jp/common2016/pdf/pethyoka.pdf>

公表時期:平成28年9月26日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

- ・公的教育機関として、教育活動や取組について、社会への説明責任を果たす。
- ・教育組織等の情報のほか、教育活動の公表を通じて本校教育の質の向上を図る。
- ・わかりやすい積極的な情報提供により、地域社会全体の信頼を得る。
- ・特色ある職業教育を対外的にアピールし、関係業界、地域住民、学生、保護者等の理解や支援を得る。
- ・日常的・組織的に公正な情報収集・提供に努める。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育目的、目標及び計画、校長名、所在地、連絡先、学院・学校の沿革・歴史
(2)各学科等の教育	入学者に関する受入れ方針及び入学者数・収容定員・在学生数、進級・卒業要件等、取得を目指す資格・検定等及び実績、卒業者数・卒業後の進路、カリキュラム、時間割
(3)教職員	教職員数、教職員研修
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組状況、実習・実技等の取組状況、就職支援等への取組支援
(5)様々な教育活動・教育環境	学校行事、学科行事
(6)学生の生活支援	学生支援の組織、学生支援の取り組み状況
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金の取り扱い、活用できる経済的支援等の措置の内容
(8)学校の財務	貸借対照表、消費収支計算書
(9)学校評価	自己点検・学校関係者評価の結果
(10)国際連携の状況	留学生入学規定(募集要項)
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

URL: <http://www.fashionpet.ac.jp/common2016/pdf/petjoho.pdf>

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 飼育・しつけ学科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ドッグトレーニング実習Ⅰ	犬の基本的な扱い方、オビディエンス（服従訓練）の基礎を学習する。	1通	456				○	○	○	○		
○			ドッグトレーニング実習Ⅱ	1年時の基礎をもとに、より高度なオビディエンスとアジリティー、ドッグスポーツを学習する。	2通	456				○	○	○	○		
○			校外飼育実習	動物園では園内の清掃、大型動物の飼育法、展示法を学ぶ。ペットリゾートカレッジでは犬猫の飼育管理、老齢犬の管理を学ぶ。	1通	228				○	○		○	○	
○			展示動物飼育学Ⅰ	肉食獣・草食獣などの展示動物の飼育管理方法、展示法を学習する。	1通	76			○		○		○		
○			展示動物飼育学Ⅱ	動物園の運営方法・危機管理対策・大型動物の展示法を学習する。	2通	76			○		○		○		
○			動物看護学Ⅰ	動物の形態、骨の名称、各器官の働きについて学習する。	1通	38			○		○		○		
○			動物看護学Ⅱ	動物の病気・治療法・対処法・衛生学について学習する。	2通	38			○		○		○		
○			動物栄養学	基本的な栄養素の働き、動物に必要な栄養素、食事法やペットフードについて学ぶ。	2通	38			○		○		○		
○			犬学	犬の歴史から基本的な習性、ワーキングドッグ・犬種学について学習する。	1通	38			○		○		○		
○			品種学	犬以外のコンパニオンアニマルを中心に猫やエキゾチックアニマルの習性や飼育管理法、品種について学習する。	2通	38			○		○		○		
○			しつけ概論Ⅰ	基本的な訓練の種類と方法、理論について学習する。	1通	38			○	△	○		○		
○			しつけ概論Ⅱ	犬の行動発達やパピートレーニング・トイレトレーニング・クレートトレーニング・社会化について学習する。	2通	38			○	△	○		○		
○			企業実習	動物関係の企業で実習を行う。	2通	60					○	○		○	
○			グルーミング実習Ⅰ	犬の扱い方、爪切りやシャンプーブローなどグルーミングの基礎を学ぶ。	1通	228					○	○		○	

○		グルーミング 実習Ⅱ	シャンプーブローだけではなく、犬体のカットも含めグルーミングの応用を学ぶ。	2 通	288				○	○			○
○		ホリスティック ケア	犬猫に有効なリンパマッサージやツボ、アロマの効能、おやつについて学ぶ。	2 通	76		○	△		○			○
○		ペットショッ プ学	家庭動物管理士検定対策としてペット業界で働く上で必要な法律、職業倫理、動物の習性、飼育管理などについて学ぶ。	1 通	38		○			○		○	
○		就職実務	社会人として必要な言葉遣いやマナー（コミュニケーション技法含む）、履歴書の書き方、面接等について学ぶ。	2 通	38		○	△		○		○	
○		パソコン実習	WordやExcelなど基本的なパソコンの使い方を学ぶ。	2 通	38		△	○		○			○
合計				19科目		2,264単位時間(単位)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件 ①通年の成績評価が全てC以上であること。 ②各学科により指定された認定試験に合格すること。（該当する場合のみ受験） ③各学科により指定された基準検定を取得すること。 ④90%以上の出席率であること。 ⑤各科目それぞれ70%以上の出課率及び80%以上の総出課率であること。 ⑥学費、その他学校納付金の納入が完了していること。		1学年の学期区分	2期
履修方法 学科ごとに指定された出課時数および、定期試験の合格を持って認められる。		1学期の授業期間	38週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。